

2017年度 開発教育指導者研修 授業実践報告

【実践者】

授業者氏名	松本清代	学校名	京都市立 百々小学校
教科・科目	総合的な学習の時間・社会科	対象学年（人数）	6年1組 2組 3組（111名）
実践年月日もしくは期間（時数）	2017年10月～12月（17時間）		

【実施概要】

1. 単元名(活動名)： 『平和を祈る～今のわたしたちにできること～』					
2. 教科・領域との関連性：  総合的な学習の時間で、前期から取り組んでいる平和学習の発展的な学習と位置づけ、また社会科の学習内容にも関連させることで、教科を横断した学習になるようにした。	3. 学習領域				
		1	2	3	4
	A 多文化社会	文化理解	文化交流	多文化共生	
	B グローバル社会	相互依存	情報化		
	C 地球的課題	人権	環境	平和	開発
D 未来への選択	歴史認識	市民意識	社会参加		
4. 単元の目標（評価の観点を意識して設定）： 自分の生活と世界とのつながりを感じ取り，自分からつながろうとする態度を育む。 ・【知識及び技能】 開発途上国の現状やODA・NGOの役割を知り，SDGsについて理解することで，地球上で起こっている問題を自分の生活とつなげて考え，自分にできることを見つけ行動にうつす。 ・【思考力、判断力、表現力等】 違いを認め共に生きようとする気持ちは，学校生活や家庭生活でも必要であることに気付き，それを表現しようとする。 ・【学びに向かう力、人間性等】 世界情勢に目を向け，人々が何を求めているのかを知ろうとする。人のあたたかさやつながろうとする気持ちを感じ取る。そのためにも様々な分野の学習に取り組む大切さに気付く。					
5. 単元の 評価規準例	①知識及び技能	日本の技術が多くの国で生かされていること，また日本も他国からの支援やつながりによって成り立っていることを知る。			
	②思考力、判断力、表現力等	自分にできることを探し，見つけ，行動につなげようとしている。			
	③学びに向かう力、人間性等	他国やそこに住む人々とのつながりを感じ，人々のあたたかさに触れることで，支え合って生きようとしている。			
6. 単元設定の理由 (児童/生徒観、教材観、指導観)	<p>「国際協力」を考えた時，日本に住むわたしたちはどうしても「支援する側」の立場に立ってしまうことが多い。日本の技術は途上国開発において重要な役割を果たし，これまで多くの成果をあげてきた。私は2013年教師海外研修に参加し，ブラジルにおいて日系人が想像を超える苦勞の末に確立した確固たる地位と，ブラジルにおける日本のODAを垣間見てきた。そこでは日本人としての心，道徳心が息づく，日本らしい支援・協力が行われていた。</p> <p>しかし，ふと立ち止まって考えると，わたしたちの日常生活も外国と深く関係している。日用品，食品だけでなく，外国とのつながりがなくなれば，今の生活を続けることは不可能となる。</p> <p>京都市東部に暮らす本校の児童は，伏見稲荷大社の裏山に当たる稲荷山や大石神社，清水焼団地を身近に感じながら過ごしている。また，地域とのつながりの中で，清水焼の絵付け体験や校章づくり，田植えや稲刈り，餅つきなど，自然豊かな土地柄を生かして様々な体験を重ねている。しかしそれが外国とのつながりとなると，自分とは遠い世界，あまり関係のない世界と思いがちである。</p>				

そこで、わたしたちの生活には実に様々な国が深く関連しているということを感じさせたいと考えた。また、世界には開発途上国を含め様々な国があることを理解し、昨今問題となっている世界規模で取組み、解決に向かわなければならない問題について、自分達にもできることがあると実感させたいと考え、単元を構築した。国際協力は心のつながりで成り立っている。人の心に寄り添うことは普段の生活でも大切であり、その心遣いが世界をより良くする行動に結び付く。広い視野で考え、身近なところからより良い世界への第一歩を踏み出す行動力を引き出したいと考えた。

7. 展開計画 (全17時間)

時	ねらい	活動	教材
1・2	ブラジルのモノや、ブラジルで活躍している日本にルーツをもつ人のインタビューを見て学習問題を把握する。  「世界とのつながりについて考えよう」	教師海外研修でブラジルから持ち帰ったものを見て、ブラジルと日本の生活について考える。 インタビューを見て、ブラジルで日本にルーツをもつ人が活躍していることを知る。	・モノランゲージ ピラルクのうろこ アサイ コーヒー豆 胡椒 カカオ豆 等 ・ブラジルで活躍する日本にルーツのある人たちのインタビュー
3	東日本大震災の後、ブラジルやパラグアイ、ペルー等に在住日系人からたくさんの支援があったことを知る。	なぜ多くの国から日本に支援があったのかを考える。	・世界が応援団
4・5	東日本大震災後、各国から届いた支援についてそれぞれ調べ、カードにまとめる。	「世界が応援団」の記事を読み、どのような国からどのような支援が届いたかまとめ、世界地図をつくる。	・世界が応援団
6・7	自分が調べる国についてより詳しく調べ、情報をカードにまとめる。	自分が担当する国について調べ、まとめる。 ・国の位置 ・産業 ・日本との関わり ・国旗、その意味	・外務省活用マニュアル ・キッズ外務省
8・9	出来上がった世界地図を見ながら、開発途上国からも支援がたくさん届いていることを知る。  「ふるさと(絵本)」「遥かに遠い空(歌)」を通してチェルノブイリ原子力発電所事故について知り、ウクライナの学校から届いた鶴を紹介する。	日本を支援する国がたくさんあったこと、開発途上国からも支援がたくさん届いたことに気づき、日本もたくさんの国とのつながりの中にあることに気付く。 チェルノブイリ原子力発電所事故のことを知り、福島だけでなく外国でも同じように避難生活を続けている人がいることを知る。 「ピースオンウィング～翼に平和をのせて～」に参加し、平和を祈る折り鶴がウクライナから届いたことを知り、自分達にできることを考える。	・ふるさと～伝えたい想い～ ・遥かに遠い空(歌)



10・11	「スリランカ」と日本とのつながりを学ぶ。	スリランカと日本の共通点を見つけ、戦後サンフランシスコで日本が分割を免れるきっかけとなった歴史的なつながりについて知る。 スリランカと日本が協力して遺跡を守っている（ODA）ということに気付く。	
12・13	国連の役割や国際協力について知る。	ワーク「私たちの生活とアフリカとのつながりを考える」（国際理解教育実践資料集より）を通して、アフリカとのつながりを知り、日本とつながりの深い国々に多くの問題があること、その解決のために国連があることを学ぶ。 ODAやNGOの役割、青年海外協力隊という活動について知る。	<ul style="list-style-type: none"> <li>国際理解教育実践資料集 ー世界を知ろう！考えよう！ー</li> <li>ユニセフ手帳</li> <li>授業で使える10分映像集 国際協力②③</li> </ul>
14・15	ゲストティーチャーの話を聞き、SDGsについて知る。	前時に学習した「青年海外協力隊」として活動してきた方から、開発途上国の実情や協力隊としての活動内容を聞く。 SDGs達成を目指し、世界の国々が協力して教ある課題解決に向かおうとしていることを知る。	<ul style="list-style-type: none"> <li>ピコ太郎×外務省（SDGs）～PPAP～</li> <li>授業で使える10分映像集 国際協力①</li> <li>私たちが目指す社会</li> </ul>
16 本時	SDGsについて考えを深め、自分達が達成できそうな目標「百々小学校SDGs17項目」を考える。	SDGsと自分たちの生活とのつながりを考えながら、自分達にできることを具体的に考え、「百々小学校SDGs17項目」を考える。	<ul style="list-style-type: none"> <li>授業で使える10分映像集 国際協力①</li> <li>私たちが目指す社会</li> <li>地球教室 2017 基礎編</li> </ul>
17	SDGsを広めるための方法を考える。	自分たちが考えたSDGsを広く知ってもらうために、どのような方法が有効かを考え、行動に移そうとする。	

## 8. 本時の展開

過程・時間	学習活動	指導上の留意点（支援）	資料（教材）
導入 (5分)	これまでの学習内容を振り返る。 <ul style="list-style-type: none"> <li>支援地図の作成</li> <li>ODAとNGOについて</li> <li>青年海外協力隊の活動</li> <li>SDGsについて</li> </ul>	これまでの学習内容を視覚的に振り返ることができるよう、パワーポイントを作成し、成果物は壁面に掲示しておく。  授業で使える10分映像集 国際協力①を再度見ることで、SDGsが設定された目的を明確にする。	<ul style="list-style-type: none"> <li>授業で使える10分映像集 国際協力①</li> </ul>
展開 (25分)	SDGs17項目の中で、一番大切だと思う項目をひとつ選び、その項目を選んだ理由とともに、友達と交流する。  SDGsを達成するために、百々小学校で自分ができることを具体的に考える。	大切なことを一つに絞ることが難しい場合は、自分でもできそうなことは何か考えるように声をかける。  なぜその項目が一番大切か理由を書くことで、友達に説明できるようにする。  大切だと思うことがそれぞれ違っているということを感じられるようにする。  自分ができることは抽象的ではなく、小さなことでも具体的に考えるようにする。	<ul style="list-style-type: none"> <li>私たちが目指す社会</li> <li>地球教室 2017 基礎編</li> </ul>

<p>まとめ (15分)</p>	<p>自分が設定した項目を交流し、具体的に取り組むことができるか考える。</p> <p>いくつかの項目をまとめることで、「百々小学校 SDGs 17項目」に絞れるようにする。</p>	<p>一人で取組めることでも、より多くの人と協力することで、より大きな成果を挙げられることに気付くようにする。</p> <p>選んだ項目は後日ポスターにして、いつでも確認できるようにする。</p>
----------------------	---	--

### 9. 本時の評価

自分にできることを具体的に考えて、SDGsにある項目とのつながりを見つけ、表現している。



### 10. 学習方法および外部との連携

#### 【学習方法】

支援の世界地図を作成した後は、子どもたちの疑問や知りたいことを中心に単元を構築した。しかし、「SDGsを通して国際協力を学ぶ」という単元の終末に向けて、SDGsを何らかの形で学習させたいと考えていた。

この単元を通して、子どもたちに世界を少し近づけることができたように感じているが、抽象的なことでは実際の行動に移すには至らない。そこで、自分にできそうなことをSDGsと関連させて見つけ出し、選び出すという活動を通して、自分達で項目を設定した。自分が関わったことで、17項目を何らかの形で意識し、行動することを期待している。

何事においても「自分事」として考えることには課題が残るが、少しでも身近に感じ、人の心に思いを馳せ、寄り添う人であってほしいと願い、このような学習単元となった。

#### 【外部との連携】

京都市国際教育グローバルキッズ研究会会長である京都市立高雄小学校校長・坪内昌子先生は、ホンデュラスで協力隊としての活動経験がある。子どもたちに海外にでる意義（挑戦、自分を試す、等）についてお話いただいた。



国際協力出前講座を利用し、JICA 京都デスク国際協力推進員の根木尚子さんに来ていただき、JICA の仕事内容や協力隊としての活動について話をしていただいた。世界の人々と協力して課題解決に向かう大切さを認識できるような話の内容を構成してくださったことで、次時子どもたちはSDGs の大切さを実感することができた。

「ピースオンウィング～翼に平和をのせて～」に参加し、ウクライナの学校と折り鶴を通じた交流を行った。また、日本で活躍するナターシャ・グジーさんの著書「ふるさと」を読み聞かせたり、ナターシャ・グジーさんの歌を聞いたり歌ったりすることで、日本だけでなくウクライナにも原子力発電所の事故によって避難生活を余儀なくされている人々がいることを知った。その人たちの気持ちを想像し、それを忘れないために自分たちも「遥かに遠い空」を歌い継いでいこうとする声があがった。

## 11. 他教員・学校内等で国際理解教育・授業実践を広める取り組み

この取組をほぼ全時間（第6・7時以外）、学年全体で一斉に取り組み、国際理解教育やSDGsを広める機会とした。

児童の学習の成果物を学年の掲示板に掲示し、校内でもより多くの人たちに見てもらえるようにした。またその掲示や学級通信等を通して、学習内容を保護者にも知ってもらうことができた。

校内で教職員対象に配布している「ESD ニュース」にSDGsを加えたことで、ESDとSDGsとのつながりを広めることができた。

年度当初に、外国語活動において国際理解教育に関連している単元を紹介している。その単元では国際理解教育に意識して取り組むことができるようにしている。



### 参考資料：

- ・「私たちが目指す社会」セーブ・ザ・チルドレン・ジャパン 2016年
- ・「どうなってるの？世界と日本」第二版 国際協力機構 2017年
- ・「授業で使える10分映像集 国際協力①②③」JICA 2017年
- ・「ピコ太郎×外務省(SDGs)～PPAP～」外務省 2017年
- ・「国際理解教育実践資料集－世界を知ろう！考えよう！－」国際協力機構(JICA)地球ひろば 2014年
- ・「外交という仕事 地球に生きるわたしたち」外務省 2016年
- ・「世界が応援団 届いたエール…日本とともに」外務省 2011年
- ・「外務省活用マニュアル」外務省 2016年
- ・「キッズ外務省」 [www.mofa.go.jp/mofaj/kids/index.html](http://www.mofa.go.jp/mofaj/kids/index.html)
- ・「ユニセフ手帳」 [https://www.unicef.or.jp/kodomo/nani/siryo/pdf/techo\\_2017.pdf](https://www.unicef.or.jp/kodomo/nani/siryo/pdf/techo_2017.pdf)
- ・「国連広報センター 2030 アジェンダ」  
[www.unic.or.jp/activities/economic\\_social\\_development/sustainable\\_development/2030agenda/](http://www.unic.or.jp/activities/economic_social_development/sustainable_development/2030agenda/)
- ・「地球教室 2017 基礎編」朝日新聞社 2017年
- ・「ふるさと～伝えたい想い～」ナターシャ・グジー 2006年
- ・「国際理解教育ハンドブック」日本国際理解教育学会編著 2015年
- ・「身近なことから世界と私を考える授業Ⅱ」開発教育研究会 2012年
- ・「参加型学習で世界を感じる」開発教育協会 2006年